

市長 平成20年度の新市建設計画の進捗率は、水沢区が28・9%、江刺区41・8%、前沢区31・5%、胆沢区25・6%、衣川区49・1%です。

質問 水沢南中学校は、県下第一の大規模校です。中央と北校舎は老朽化が激しく、雨漏りや水道水が錆で汚染されたりしています。3年後に計画されている大規模改修でなく、改築を行うべきと考えますが伺います。

教育委員長 改築となると、耐震補強工事の時に受けた補助金の返還や事業費の補助がなく、全額市費負担となりますので困難です。

○総合支所の活性化について
○廃食用油の回収について



えんどう 遠藤 さとし 敏 議員

質問 効率的な機能を持ち、区の独自性や特色を育てる熱意と独自の予算を持つ総合支所を配置することが職員に活力を与え、魅力ある市をつくると思います。

職員の削減については、本庁と水沢総合支所の一体化を検討し、住民に直接かわりのある部署に



市民のよりどころ総合支所

職員を重点的に配置する方向で考えるべきだと思います。また、総合支所の区長は4年間で廃止となるが、廃止後の体制をどの様に考えているのか伺います。

市長 支所独自で使える予算については、色々な仕組みを含めて検討してゆく必要があると思います。ポスト区長は、一般職の職員を支所長としておくことを想定し、キャリア、実績、見識がある人が付くと思います。職員の削減については、水沢総合支所と本庁は、平成22年度からの統合は必要だと思います。

来春からそれに向けて過渡期的に進めたいと思います。業務量と残業の状況を精査し、適切を期さなければならぬと思います。

質問 廃食用油の回収については、環境保護にも大きな効果が期待されるが、いつ頃からはじめるか伺います。

市民環境部長 試験的に簡単に取り組める形で、ペットボトルに廃食用油を入れ持ち込むための箱を用意し回収する方法を考えています。

21年の1月に総合支所でモデル的に始め、実践経過を見ながら全市に広めて行きたいと思っています。

漆・桐を育てよう
伝統工芸を枯らさないで



あべ 皓三 こうぞう 議員

質問 岩手県での伝統的工芸品は4品目です。その内、3品目が当市で生産され、南部鉄器（水沢鋳物）、秀衡塗り、岩谷堂筆筒です。漆は生産されず、工芸品製作者育成も難しく、桐は枯渇状態です。まちづくりや観光物産業としても重大な危機を迎えていると思います。

また当市の総森林面積は60%を占め里山を含めた観光物産の資源が山菜等たくさんあります。これ

らをどう生かすかその在り方も伺います。

市長 奥州藤原氏の文化は漆の文化でもあり、改めて新鮮な視点だと思っています。このような課題を育てていくためには民間の方々の思い、願いなりを行政が必要なバックアップをするのが一番よいと思います。支援の方法としては、地域づくり補助金、奥州市パーセント条例等もありますので、広く支持を集める形で事業展開することによりと考えます。その場合には出来るだけの支援をしていきたいと思っています。

商工観光部長 伝統工芸品等の振興策については、現在、団体に対する補助金を出していますし、産学官連携の支援補助もしています。また、この度、国・県の関わり



南部鉄器・岩谷堂筆筒・秀衡塗